

病理学総論

責任者・コーディネーター		病理学講座（病態解析学分野）入江 太郎 教授		
担当講座（分野）		病理学講座（病態解析学分野）		
対象学年	2	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	後期		前期 —	—
			後期 24.0時間	32.0時間

学修方針（講義概要等）

3年次前期に学修する口腔病理学と3年次後期から開始される臨床系科目を修得するための基盤となる病理学の修得を確実なものとするために、病理学総論の知識を用いることにより、代表的な病変の病理組織標本における基本的な病理組織学的所見を適切に指摘でき、それらの所見に基づいて病態を考察できる知識と技能をアクティブラーニングにより学修する。

教育成果（アウトカム）

歯科医師として科学的根拠を基盤とした診断と医療を行うために、次年度に予定されている病理学各論（口腔病理学）を身につけるための基盤となる代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍、奇形を学修することにより、病気の原因や成り立ちを理解することができる。

（関連するディプロマポリシー：4、8、9）

到達目標（SB0s）

1. 病因論を説明できる。
2. 代謝障害を説明できる。
3. 循環障害を説明できる。
4. 炎症を説明できる。
5. 腫瘍を説明できる。
6. 奇形を説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書とWebClassに提示されている講義資料とプレテストを用いて事前学修（予習・復習）を行うものとする。各授業に対する事前学修の時間は55分を要する。各講義の講義開始時にプレテストを行い、講義時間内に担当教員とのディスカッションの機会を設ける。事後学修として振り返り問題演習の課題プリントのレポート作成を行う。事後学修の時間は55分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

（事前学修：55分を要する 事後学修：55分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	9/30 (火)	1	入江太朗教授 (病理学講座 病態解 析学分野)	病理学序論、病因論 病理学の概念と病因に ついて理解する。	1. 病理学の意義を説明できる。 2. 病理学と臨床医学の関係を説明 できる。 3. 内因について説明できる。 4. 外因について説明できる。 5. 病理検査法について説明でき る。 6. 細胞診について説明できる。 7. 特殊検査法について説明でき る。 8. 内分泌障害について説明でき る。 [A-5-1]
講義	9/30 (火)	2	入江太朗教授 (病理学講座 病態解 析学分野)	細胞傷害の機序 どの様な代謝過程の異 常がいかなる機能的な いし形態的異常を生じ るのか理解する。	1. 細胞傷害をきたす因子について 説明できる。 2. 細胞傷害の機序と形態学的変化 について説明できる。 3. 空胞変性、脂肪変性、好酸性変 性、硝子様変性、硝子滴変性、フィ ブリノイド変性、角質変性、粘液変 性について説明できる。 4. 壊死とアポトーシスについて説 明できる。 5. 萎縮について説明できる。 [A-5-2-1~4]
講義	10/7 (火)	1	入江太朗教授 (病理学講座 病態解 析学分野)	代謝障害 代謝過程の概略を把握 した上でその異常によ り生じる代表的な疾患 を理解する。	1. 脂質代謝障害について説明でき る。 2. 糖代謝異常について説明でき る。 3. タンパク質代謝異常について説 明できる。 4. 核酸代謝異常について説明でき る。 5. 色素代謝異常症について説明で きる。 6. 無機物代謝障害について説明で きる。 [A-5-2-5]

講義	10/14 (火)	1	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	循環障害 体液の循環の異常によりどのような障害が生じるのか理解する。	1. 水腫の定義・病態生理・形態学的変化について説明できる。 2. 虚血の定義・原因・転帰について説明できる。 3. 充血とうっ血について説明できる。 4. 出血と出血性素因について説明できる。 5. 血液凝固機序と血栓症について説明できる。 6. 塞栓症の定義・種類・結果・転帰について説明できる。 7. 梗塞の定義・種類・形態学的な変化について説明できる。 8. ショックの定義・発生・種類・形態学的な変化について説明できる。 9. 傍側循環について定義・種類・病態生理を説明できる。 10. 高血圧と低血圧について説明できる。 [A-5-4]
講義	10/21 (火)	1	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	炎症 障害的刺激・侵襲に対する局所ならびに全身的な防御反応について理解する。	1. 炎症の定義と原因について説明できる。 2. 炎症反応のカスケードについて説明できる。 3. 炎症巣の構造と浸潤細胞について説明できる。 4. 炎症のケミカルメディエーターについて説明できる。 5. 急性炎症について説明できる。 6. 慢性炎症について説明できる。 7. 炎症の転帰について説明できる。 8. 炎症の名称と分類について説明できる。 [A-5-5]
演習	11/4 (火)	1	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野) 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	病理学到達度試験 これまでに行った講義の内容についての理解度を確認する。	1. 病理学序論、病因論についての理解度を確認する。 2. 細胞傷害の機序についての理解度を確認する。 3. 代謝障害についての理解度を確認する。 4. 循環障害についての理解度を確認する。 [A-5-1, A-5-2, A-5-4, A-5-5]
講義	11/4 (火)	2	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	増殖と修復 病的侵襲に対する生体の活動的变化を理解する。	1. 細胞増殖と分化について説明できる。 2. 肥大と増生について説明できる。 3. 化生について説明できる。 4. 再生について説明できる。 5. 肉芽組織と異物処理について説明できる。 [A-5-3-1~5]

講義	11/18 (火)	1	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	感染と免疫異常 生体恒常性維持のための自己・非自己の識別に基づく異物処理のしくみとその異常について理解する。	1. 免疫応答とその調節について説明できる。 2. 免疫反応と組織障害について説明できる。 3. 自己免疫疾患について説明できる。 4. 免疫不全症候群について説明できる。 5. 細菌、ウイルス、真菌及び原虫による感染症の種類やその診について説明できる。 [A-4-1-3, A-4-2-1~4, 6]
講義	11/25 (火)	1	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	腫瘍Ⅰ 正常細胞が自律性をもった過剰増殖を示すようになった状態を理解する。	1. 腫瘍の定義と分類について説明できる。 2. 組織学的分類と命名法について説明できる。 3. 良性腫瘍と悪性腫瘍について説明できる。 4. 腫瘍の生物学について説明できる。 5. 腫瘍の発生について説明できる。 6. 癌遺伝子・癌抑制遺伝子について説明できる。 7. 腫瘍免疫について説明できる。 8. 宿主に及ぼす腫瘍の影響について説明できる。 [A-5-6-1~4]
講義	12/9 (火)	1	佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	腫瘍Ⅱ 正常細胞が自律性をもった過剰増殖を示すようになった状態を理解する。	1. 良性腫瘍の組織型について説明できる。(乳頭腫・腺腫・線維腫・脂肪腫・骨腫・平滑筋腫・血管腫・リンパ管腫・神経鞘腫・色素性母斑) 2. 悪性腫瘍の組織型について説明できる。(扁平上皮癌・紡錘形細胞癌・腺癌・軟骨肉腫・骨肉腫・平滑筋肉腫・多発性骨髄腫・悪性黒色腫) 癌の広がり方と進行度について説明できる。前癌病変と境界病変について説明できる。 [A-5-6-5~6]
講義	12/23 (火)	1	佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	染色体・遺伝子および発生の異常 発生の異常やそれに関わる原因について理解する。	1. 染色体・遺伝子の基本概念を説明できる。 2. 発生異常について説明できる。 3. 染色体異常による疾患について説明できる。 4. 遺伝子異常による疾患について説明できる。 [A-5-1-1]
講義	12/23 (火)	2	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	病理学総論の要点 病理学総論の重要事項を整理し理解する。	1. 病理学総論で学んだ重要事項について説明できる。 [A-5-3, A-4-2-1~4, 6, A-5-6, A-5-1-1]

実習日程表

実習	10/7 (火)	2	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野) 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	バーチャルスライド実習① 細胞傷害・代謝障害の病理組織形態学的特徴を理解する。	1. 蛋白変性(顆粒変性および空胞変性)の病理組織学的特徴を説明できる。 2. 蛋白質変性(粘液変性・硝子変性)の病理組織学的特徴を説明できる。 3. 脂肪変性の病理組織学的特徴を説明できる。 [A-5-2]
実習	10/14 (火)	2	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野) 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	バーチャルスライド実習② 代謝障害・循環障害の病理組織形態学的特徴を理解する。	1. 色素変性(ヘモジデリン・ビリルビン・リポフスチン・メラニン)の病理組織学的特徴を説明できる。 2. 出血の病理組織学的特徴を説明できる。 3. うっ血の病理組織学的特徴を説明できる。 4. 血栓症の病理組織学的特徴を説明できる。 [A-5-2, A-5-4]
実習	10/21 (火)	2	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野) 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	バーチャルスライド実習② 代謝障害・循環障害の病理組織形態学的特徴を理解する。	1. 色素変性(ヘモジデリン・ビリルビン・リポフスチン・メラニン)の病理組織学的特徴を説明できる。 2. 出血の病理組織学的特徴を説明できる。 3. うっ血の病理組織学的特徴を説明できる。 4. 血栓症の病理組織学的特徴を説明できる。 [A-5-2, A-5-4]
実習	10/28 (火)	1 2	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野) 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	バーチャルスライド実習③ 炎症・増殖と修復の病理組織形態学的特徴を理解する。	1. 再生の病理組織学的特徴を説明できる。 2. 器質化の病理組織学的特徴を説明できる。 3. 化膿性炎の病理組織学的特徴を説明できる。 [A-5-3, A-5-5]
実習	11/11 (火)	1 2	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野) 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	プレテスト・実習到達度試験 これまでに行ったプレテスト(事前練習版・本番版)と実習内容(実習①-③)についての理解度を確認する。	1. 細胞傷害の病理組織形態学的特徴を説明できる。 2. 代謝障害の病理組織形態学的特徴を説明できる。 3. 循環障害の病理組織形態学的特徴を説明できる。 4. 炎症の病理組織形態学的特徴を説明できる。 [A-5-2, A-5-3, A-5-4, A-5-5]
実習	11/18 (火)	2	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野) 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	バーチャルスライド実習④ 免疫異常・感染症の病理組織形態学的特徴を理解する。	1. 真菌感染症の病理組織学的特徴を説明できる。 2. 特異性炎の病理組織学的特徴を説明できる。 3. ウイルス感染症の病理組織学的特徴を説明できる。 [A-4-1-3]

実習	11/25 (火)	2	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野) 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	バーチャルスライド実習⑤ 良性腫瘍の病理組織形態学的特徴を理解する。	1. 良性上皮性腫瘍について説明できる。 (乳頭腫・腺腫) 2. 良性非上皮性腫瘍について説明できる。 (線維腫・脂肪腫・平滑筋腫・血管腫・リンパ管腫・色素性母斑) [A-5-6]
実習	12/2 (火)	1 2	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野) 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	バーチャルスライド実習⑤ 良性腫瘍の病理組織形態学的特徴を理解する。	1. 良性上皮性腫瘍について説明できる。 (乳頭腫・腺腫) 2. 良性非上皮性腫瘍について説明できる。 (線維腫・脂肪腫・平滑筋腫・血管腫・リンパ管腫・色素性母斑) [A-5-6]
実習	12/9 (火)	2	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野) 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	バーチャルスライド実習⑥ 悪性腫瘍の病理組織形態学的特徴を理解する。	1. 悪性上皮性腫瘍について説明できる。 2. 悪性非上皮性腫瘍について説明できる。 [A-5-6]
実習	12/16 (火)	1 2	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野) 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	バーチャルスライド実習⑥ 悪性腫瘍の病理組織形態学的特徴を理解する。	1. 悪性上皮性腫瘍について説明できる。 2. 悪性非上皮性腫瘍について説明できる。 [A-5-6]
実習	1/6 (火)	1 2	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野) 佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	プレテスト・実習試験 これまでに行ったプレテスト（事前練習版・本番版）と実習内容（実習④-⑥）についての理解度を確認する。	1. 病理学総論で学んだ病理組織形態学的重要事項についての理解度を確認する。 [A-4-1-3, A-5-6]

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	歯学生のための基礎病理学	高田 隆 監、入江太朗 他著	医歯薬出版	2024年
参	要説 病理学総論	草間 薫、入江太朗 他編	医学情報社	2020年
参	スタンダード病理学	下野正基 編著	学建書院	2019年
参	カラーアトラス 基礎組織病理学 第4版	スティーヴンス 他著 今井 大 他監訳	西村書店	2004年
参	標準病理学 第6版	北川昌伸・仁木利郎 編	医学書院	2019年
参	シンプル病理学 改訂第7版	笹野公伸 他編	南江堂	2015年

成績評価方法・基準・配点割合等

講義と実習の総合評価とし、評価点合計で65%以上を合格とする。
 講義：病理学到達度試験(20%)、後期試験(30%)、プレテスト(2.5%)、振り返り問題演習(2.5%)により評価する。
 実習：実習到達度試験(20%)、実習試験(20%)、実習スケッチの検印数(5%)とする。

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

講義毎に講義内容に関連する「プレテスト」（講義日までにWebClassに掲載される事前練習版と講義日の講義開始時に実施される本番版）と重要項目の「振り返り問題演習」を実施し到達度を確認する。プレテストの事前練習版と本番版については講義開始時にその解説によるフィードバックを行う。振り返り問題演習については提出されたプリントに記載内容の不足がある場合には添削によるフィードバックを行った上で再提出を求める。実習スケッチは口頭試問・ディスカッションにより実習内容が十分理解されていることを確認の上検印を行う。口頭試問により理解が不十分と考えられる場合はレポート作成を指導する場合がある。

実習スケッチの検印数が全てのスケッチの全検印数の6割未満の場合、実習試験の受験資格を失う。

各講義・実習時間内に講義・実習内容に関して担当教員とのディスカッションの機会、及び学生の理解度を講義の途中あるいは最後にクリッカーを活用して確認する機会も必要に応じて設ける。演習問題を学生同士で教え合う時間を設けることで理解を深める機会も同様に設定する。

講義担当者は、学生参加型講義を実施するために、必要に応じて過去の国試問題等を演習用に準備し、クリッカー等を用いて、演習と解説の成果・習得の確認を行う。

各学生は各回の講義到達目標を事前に教科書で調べた上で、各講義・演習および実習に臨むこと。講義終了後は、事前学修済み教材を活用し事後学修を必ず行うこと。いずれも55分を目安とする。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 無

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
デスクトップパソコンProDesk600一式	G3 SF/CT	1	視聴覚用（学部授業他）機器	実習（講義）の資料提示用
オールインワン蛍光顕微鏡	BZ-X700	1	基礎実習・研究用機器	実習・研究における形態学的観察用
カラー複合機・imageRUNNER ADVANCE	C2218F-V 18PPM	1	基礎実習・研究用機器	講義資料作成

デスクトップパソコン・Mate J ・一式	MJ28E/L-J SPL	1	基礎実習・研究用機器	講義資料作成
ノートパソコン	250G6	1	基礎実習・研究用機器	講義資料作成
ディスプレイモニタ 24.1型	EV2456-BK	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習資料作成
デスクトップパソコン	Prodesk400 G6 SF/CT	1	視聴覚用機器 基礎実習機器	講義・実習資料作成